

新藤信夫市政ニュース

平成21年4月
Vol.12
発行:自民党さいたま市議会議員団大宮区西支部
TEL 647-7713
FAX 647-7726



2月議会を終えて 新藤信夫

今年梅や桜の開花は早かったもののその後の気温の低下などの気象の変化によって開花が進まず、お花見の予定も狂ってしまった方も多いのではないだろうか。4月は入社、入学の時期、10年に一度といわれる世界不況の中期の混乱が深まってきた以上、スピードで経済の混乱が深まってきたが、意欲を持った若者たちが変革と飛躍を求めて未来に向かって大きく躍進されることを期待します。

さて、2月3日にはじまった21年2月定例会は平成21年度予算を中心に審議が行なわれ3月12日に38日間の会期を終了しました。

平成13年に大宮、浦和、与野の3市が合併してさいたま市が誕生して以来、市民のだれもが住むことを誇りに思える理想都市の実現を目指して議会も活動を続けてきました。今年3月にはさいたま市の拠点病院の一つとなる「さいたま医療センター」が開設され、地域の長年の悲願であった「西大宮駅」が開設され、また、さいたま新都市には東西地域の架け橋となる「新都心大橋」が開通するなど本市の基盤整備に欠かせない施設が完成に至っています。

しかしながら、他の政令市との比較では生活道路の整備、下水道普及率、市民一人当たりの公園面積、水道老朽管の整備等まだまだ多くの分野で遅れています。更なる発展のためには、



甘利明行政改革・公務員行政制度改革担当大臣(大臣室にて対談)

原状に甘んじることなく、本市の持つ資源や特色を最大限に生かしたまちづくりに取り組んでいくことが重要です。私も市議会議員として2期目の折り返し点を迎えた今、地方分権改革を始め、政治・行政を市民の身近なところに取り戻すため、また、近い将来実施されるであろう道州制等について、国や市政に対し積極的にはたらきかけてまいります。

平成21年度の財政状況と予算概要

日本経済も世界同時不況の中にあつて深刻な危機に直面しています。さらには、国の経済対策がねじれ国会の下、機動的に講じられない中にあつて、さいたま市においても経済、雇用は悪化の方向に進んでいます。そのため、市では議会からの要望もふまえて、独自に中小企業への融資枠の拡充や相談窓口の開設など、経営の安定化に向けた取り組みを開始しました。また、平成21年度は法人市民税が約41億円減少すると共に諸収入や、自動車取得税等も減少に転じると見込まれています。こうした中でさいたま市では経済不況に対処として、市民一人当たり約31万円(平成19年度)という政令指定都市最小の市債残高や、経常収支比率が86.1%というトップクラスの健全財政を活かして、約55億円増の市債を起し、一般会計で3,912億3千万円(平成20年度比0.2%増、80億円増)全会計予算額で6,773億2,829万円(平成20年度比0.8%増、54億4,630万円減)の積極予算を組みました。予算の配分としては、「子育て支援」、「安心、安全」、「環境」をキーワードとして重点を置き、市民の要望や地域の課題を踏まえ、経済の悪化に伴う生活者対策に配慮した予算編成となりました。なお、平成19年度から取り組んできた「子育て支援医療費助成」については、小学生では入院費のみが無料となっていた制度を議会からの強い要望により、3月臨時議会において見直し、中学校卒業まで入院、通院医療費を無料とすることで補正予算を可決しました。これによって平成21年10月から乳幼児、小中学生までの医療費無料化が実現します。

平成21年度予算

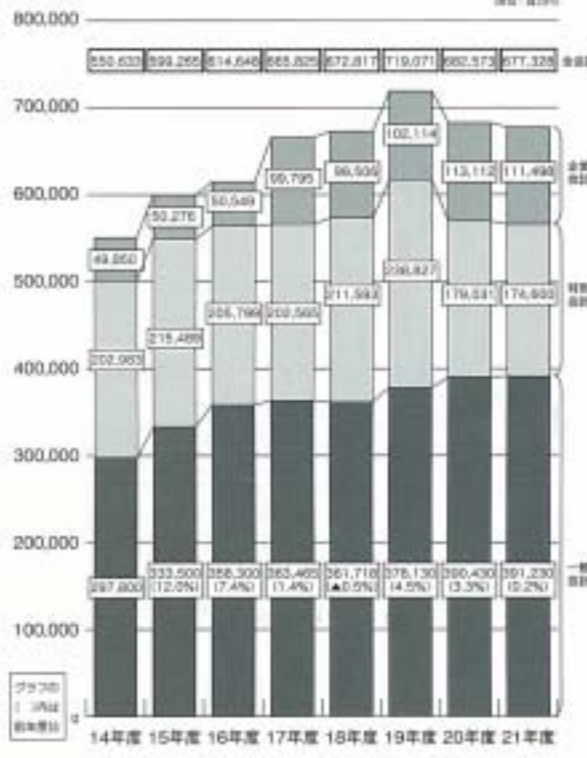
予算(前年度比較)

会 計	平成21年度	平成20年度	増 減
一般会計	3,912億3,000万円	3,904億3,000万円	8億円増(0.2%増)
特別会計	1,746億0,000万円	1,790億3,100万円	44億3,100万円減(2.5%減)
企業会計	1,114億9,829万円	1,131億1,192万円	16億1,363万円減(1.4%減)
合 計	6,773億2,829万円	6,825億7,292万円	52億4,463万円減(0.8%減)

平成21年度予算規模

一般会計	特別会計	企業会計
民生、土木、公債費等	国保、老保、介護 区高型事業等	水道、病院、下水道事業
3,912億円(57.7%)	1,746億円(25.8%)	1,115億円(16.5%)

〈予算規模の推移〉



項目	金額	割合(%)
① 市税	220,962,284	56.5
② 市債	43,951,000	11.2
③ 国庫支出金	39,687,154	10.1
④ 諸収入	27,199,983	7.0
⑤ 地方消費税交付金	9,873,000	2.5
⑥ その他	49,536,579	12.7
合 計	391,230,000	100

項目	金額	割合(%)
① 民生費	108,472,668	27.7
② 土木費	89,690,991	22.9
③ 総務費	43,294,090	11.1
④ 教育費	42,800,972	10.9
⑤ 公債費	42,370,686	10.8
⑥ 衛生費	34,014,987	8.7
⑦ 消防費	14,090,487	3.6
⑧ 商工費	12,344,953	3.2
⑨ その他	4,150,166	1.1
合 計	391,230,000	100

平成20年度の主な事業

- ハローエンゼル訪問事業（約2,000万円）
生後4ヶ月までの乳幼児がいる全家庭を民生委員や児童委員が訪問し子育て相談や情報提供を行う。
- 乳幼児・児童医療費の助成拡充等（約26億円）
所得制限を廃止し、小学校入学前までの児童の医療費を無料化。入院医療費の無料化を中学生まで拡大する。また、公費による妊婦健康診査回数を2回から5回に増やす。
- 普通教室へのエアコン設置（約5億5,900万円）
平成19年度に引続き、市立高校3校にも対象を拡大し普通教室へのエアコン設置を進める。市立小中学校への普通教室へのエアコン設置は今年で完了する。
- 盆栽関連施設の設置（約6億3,000万円）
平成21年度に北区に開設予定の盆栽関連施設の設計と、既存建物の解体工事費。岩槻区に開設予定の岩槻人形会館については、今年度は基本設計を行う予定で、開設は2年遅れの平成22年度になる見込み。
- 大宮駅周辺開発の構想策定に着手（1,900万円）
大宮駅の西口、東口を含めた大きな構想を平成20年度に中間報告、21年度に構想を策定する予定。現在、現状分析や基本的な考えをまとめ、20年度には大宮都市再生委員会を立ち上げる。
- 国際会議の開催（5,100万円）
8月に（仮称）国連軍縮さいたま会議が開催される。20ヶ国から約70名が参加する予定で合併前も含めてさいたま市での開催ははじめて、また、11月には、（仮称）国際会議さいたまシンポジウムが予定されており環境をテーマに議論が交わされる。
- 国・県道等の主要幹線道路の整備（約150億円）
- 公共下水道・雨水幹線等の整備（約147億円）

市民の声

市の独自文化への取り組みに期待する

さいたま市は、災害も少なく、気候的にも住みやすい。特に首都圏内にあり、大都市・東京へのアクセスがよいことは誰しも認めることである。江戸期に天領が長く続いたことから、素直な人柄なども加わり、住み続けたいと希望する市民が多い。

それだけに東京のお隣で、独自の文化が見られないともいわれる。旧大宮市のころから、鉄道・漫画・盆栽は、市の文化として力を入れてきたものの、その拠点づくりである施設は、漫画会館を除いて、出来ず仕舞いで終わった感がある。しかし、合併・政令指定都市に移行して、大きく前進をし、実を結んできている。

例えば昨年10月には、大宮区内に悲願の鉄道博物館がオープンし、長年の取り組みがやっと叶ったわけだ。世界有数の規模を誇るこの博物館を見学していると、大宮にいることを忘れる。将来的にも市民の誇りとなるであろう。

さらに、5億円で取得した盆栽などをメインに展示する、盆栽関連施設が今年、着工されるという。いづれ世界に誇れる新名所が堂々オープンする。この施設を中心に地場産業の盆栽は、日本の伝統文化のひとつとして大きく飛躍することを期待したい。

しかし都市基盤の整備の遅れが見られるが、「文化が街をつくる」との気概を持ち、市の独自性・誇りとなるソフト部分の整備も力を入れて、市民生活の向上を図ってもらいたい。私たちは、各施設からの発信を生活の中に取り入れ、潤いのある心豊かな生活に結び付けて生きたいものだ。

（盆栽好きの鉄ちゃん）



「獅子」(マイコ) 五葉松
樹齢350年、樹高68cm、全長147cm
県産盆栽として日本一、
第72回展覧会最高賞受賞。

平成20年度大宮区内で行われる主な事業

事業名	場所	事業費	事業概要
一の宮通り(通称オレンジロード)整備と沿線商店街の深耕・活性化	宮町1丁目 高鼻町1丁目 大門町2-3丁目	商店街活性化推進事業費 8,743千円	商店街の活性化を図り、地域特色を創出する取組に対して支援する
産業道路(バイパス化)の整備促進	天沼町2丁目	産業道路街路事業費 362,515千円	天沼高鼻線から市道20195号線までの670m区間 平成20年度は引き続き用地買収を行う
大宮駅西口バスターミナルのエスカレーター、エレベーターの設置	大宮駅西口	橋りょう維持事業費 546,000千円	より使いやすい広場の実現に向けて、エレベーター等の設置を検討する
大宮駅東口駅前広場及び銀座通りの遠やかな整備	大宮駅東口駅前 広場、銀座通り	交通安全施設整備事業経費 2,306,826千円	大宮駅東口駅前広場については、平成19年度より改修工事を継続し、銀座通りについては、電線類地中化に向けて調整を図る
中山道の電線地中化と歩道整備の推進	大宮区仲町、ほかの中山道		事業中路線であり、未買収用地の取得、及び工事の推進に努めます
氷川線西通線(区役所前通り)の早急な事業決定	大門町3丁目～ 吉敷町1丁目	大宮駅東口都市再生プラン推進事業費 15,070千円	氷川線西通線は、大宮駅東口都市再生プランのリーディング事業に位置づけしており、早期の事業決定に向け推進する
氷川参道の歩車道分離の完全完成に向け事業の推進	大宮区東町1丁目 目北区間	大宮駅東口都市再生プラン推進事業費 43,135千円	歩車分離整備の未実施区間(約250m)において、地元まちづくり団体との協働により、前線の歩車分離整備を推進する
三橋中央線の整備、荒川左岸道路から大宮バイパスまでの事業実施	国道17号から新大宮バイパスまでの事業実施	三橋中央線街路事業費 1,091,093千円	東側778mを平成19年度未完了を目指し、さらに新大宮バイパスまでの西側区間840mを平成20年度に事業着手し、用地買収を行う
JR大宮駅東口にエレベーター、エスカレーターの増設	大宮駅東口	交通バリアフリー推進事業費 73,188千円	平成20年度をめぐりに大宮駅東口の南側階段部分にエレベーターを設置する
大宮駅西口都市改修事業(第四地区土地区画整理事業)	大宮駅西口 (桜木町1丁目錦町地内)	移事業費 19,070,000千円 平成19年度 19,070,000千円	施工地区面積 9.68ha 平成17年度から本格的建物移転を開始 主要道路及び街区整備を推進する
桜木小学校校舎改修事業	大宮区桜木町4丁目328番9	仮設校舎設置費 平成19年度から21年度 252,000千円	三橋中央線整備事業に伴う北校舎の改築 19年度 仮設校舎建設 20年度 解体工事 21年度 建設工事 22年度 供用開始
鴻沼川治水対策事業	大宮区桜木町4丁目水川橋～桜木調節池	埼玉県事業 平成18年度から継続事業	富士見工区 560m
桜木調節池公園事業	大宮区桜木町4丁目桜木調節池	平成19-20年度 170,000千円	調節池上に公園を整備する 面積 約7,000㎡



一の宮通り



大宮駅西口バスターミナル



大宮駅東口駅前広場



区役所前通り



中山道の電線地中化



三橋中央通線